



脱炭素と製造業の関係について質問しました

1. 4/18 参議院経済産業委員会で国会質問

質問内容	答弁者名	答弁内容
・欧州委員会では、鉄鋼・アルミ等の輸入で炭素国境調整措置の導入を決定しているが、日本への影響は？	経済産業省 産業技術環境局長 島山陽二郎	・日本企業によるアルミ、セメント、肥料、水素、ねじ、ボルト等の欧州輸出への影響が懸念されている。
・GXの基本方針では、鉄鋼業で高炉から電炉への転換を方針としている。鉄のスクラップは、国内で確保できるのか。	経済産業省 官房審議官 恒藤晃	・鉄のスクラップに混入した不純物の見地を自動で行う技術への支援等を通じて、鉄スクラップを確保する。
・脱炭素に対応した製品は、製品価格が通常製品より高くなってしまい、購入が進んでいないため、需要喚起策を行ってほしい。	経済産業省 官房審議官 恒藤晃	・カーボンニュートラル（脱炭素の取り組み）の実現には、環境負荷の低い製品が市場で選択されることが必要である。 ・排出量の見える化を行う。
・鉄を長持ちさせるには亜鉛コーティングが必要だが、 <u>亜鉛の精錬</u> にはCO ₂ が大量に排出されることから、 <u>市場での評価が低い</u> 。政府による支援を行ってほしい。	経済産業省 産業技術環境局長 島山陽二郎	・ <u>脱炭素</u> には <u>サプライチェーン全体で行う</u> ことが必要。Xリーグで、ルール作りを進めており、脱炭素の取り組みがビジネスで適切に評価される仕組みづくりを検討している。
・GX推進法案において、「円滑な労働移動」という文言があるが、「公正な労働移行」ではないのは何故か？ ・GX推進戦略本部に、厚生労働大臣がなぜ参加していないのか？	経済産業省 経済産業政策局長 飯田祐二	・「公正な労働移行」の重要性は十分認識している。 ・政府全体で連携していくため、厚労省を含めてどういう連携体制をつかって取り組んでいくか検討する。

2. 4月の国会見学を紹介します。



4/7 NOKグループ労連



4/10 JAM 精密時計部会



4/17 JAM 北東北

4月には、多くのJAMの皆さんが国会見学へいらっしゃいました。まだまだ掲載出来ませんでしたので、次の号外で掲載する予定です。